

2006 年度 事業活動報告

2006 年度日本ハビタット協会は、国連ハビタットが行う戦争や災害で打撃を受けたまちの復興再建事業「紛争・災害後のまちづくり再建事業」の支援に努めたほか、国連ハビタットの広報事業に重点をおき、活動しました。

広報事業として筆頭に挙げられるのが、2006 年 6 月 19 日～23 日にカナダバンクーバーで開催された第 3 回世界都市フォーラムへの参加です。日本政府のブースを企画・運営する機会を得、日本の都市の“持続可能なまちづくり”について広報するとともに、国連ハビタットアジア太平洋事務所が日本政府や福岡県、福岡市と強いパートナーシップを持ちながら「災害・紛争後のまちづくり事業」を進めている状況を約 10,000 人の参加者に向けて広報しました。フォーラム終了後、このフォーラムの内容を 156 ページの報告書にまとめ発表しています。

協力事業としては、2006 年 2 月に札幌で開催したチャリティコンサートに寄せられた寄付金でカンボジアのスラム改善事業を実施したほか、インドネシア・ジャワ島中部地震（2006 年 5 月発生）の被災地に募金を送金しました。また、2005 年度からの継続事業で、パキスタン大地震（2005 年 10 月にパキスタン北部で発生）への緊急支援として建設した緊急シェルターが完成しました。

国際理解学習にも力を入れ、修学旅行生への授業や企業、小学校への出前授業を実施し、さらに、子ども達にも国連ハビタットの事業活動が理解しやすいように、小学生を対象とした WEB 紙芝居「3 匹のこぶたとハビゾウ君」を作成しました。今後（2007 年度完成予定）の国際理解学習のツールとして活用する予定です。

1. 広報事業

(1) 国連ハビタット第 3 回世界都市フォーラム

2006 年 6 月 19 日～23 日の 5 日間、カナダのバンクーバーで開催された国連ハビタット主催「世界都市フォーラムⅢ」に参加し、日本政府（国土交通省）が出展するブースを企画・運営しました。このフォーラムは 2 年に一度開催されるもので、今回は「私たちの未来：持続可能な都市～観念から行動へ～」をテーマに開催されました。100 ヶ国以上の国から政府、地方公共団体、専門家、研究機関、民間、NGO、学生や一般市民の方々等、約 10,000 名が参加しそれぞれの立場から意見を交換しました。



当協会ではメインテーマに基づき、「環境に配慮した新しい国土計画の考え方」、「先進的なまちづくりに取り組んでいる 7 都市の事例（京都市、福岡市、北九州市、飯田市、室蘭市、田原市、近江八幡市）」と「日本政府や福岡県と国連ハビタットの協力関係」についての展示物、配布物を作成しました。



展示物は、軽くて持ち運びの利便性に優れ、釘を1本も使用しない紙素材の折りたたみ式パネル6枚(裏表12枚・180cm×190cm)及び映像にて日本の都市を紹介しました。パネルのデザインについては、日本の国旗カラーである白をベースに赤の日の丸と日本地図を背景に透明感とインパクトのあるものを作成しました。

また、展示内容をさらに詳しく説明したパンフレット(全30頁)は大豆インク・100%リサイクルペーパー仕様と環境面を重視して作成。デザインについては、表紙を日本の伝統職色としての青碧色を基調に、水面に広がる輪、日本庭園の砂の輪郭など日本古来より伝わる世界観を表現し、中身については、全体の色使いをアースカラーで配色。ブース内には、折鶴、浴

衣地を展示するなど日本らしさを演出しました。

ブースでは、マリ・クリスティーヌ国連ハビタット親善大使(日本ハビタット協会副会長)をはじめ、協会職員並びにボランティアスタッフが、日本の持続可能なまちづくりに対する取組みを、多くの来場者に認識して頂けるように努めました。

日本政府から参加した竹本直一財務副大臣(国連ハビタット議員連盟事務局長、日本ハビタット協会理事)、吉田博美国土交通大臣政務官、多賀敏行バンクーバー総領事などの来訪も受け、他国からの参加者と意見交換することができるようとなりました。

来場者からは、持続可能な都市についての取組みがよくわかると好評を頂きました。5日間で2600人の来場者があり、意見を交換しあい活況に満ちた展示となりました。

(2) 講演会開催

国連ハビタットの活動の広報のために5月18日、東京・横浜の2会場で国連ハビタットアジア太平洋事務所の佐藤摩利子人間居住専門官(現在は、ハビタット ジュネーブ事務所勤務)の講演会「国際機関で働く～女性にやさしいまちづくりを目指して～」を開催しました。両会場とも、和やかな雰囲気の中にも活発な意見が飛び交い、国連ハビタットの活動の良い広報の場となりました。

◆東京会場(千代田区麹町区民会館): 31名参加

◆横浜会場(パシフィコ横浜国際協力センター)

: 44名参加



(3) イベント

2005年世界万国博「愛・地球博」のフォローアップイベントとして6月23日～25日、市民大交流フェスタ「育てよう！愛・地球博の種」に参加しました。

愛・地球博にて展示した国連ハビタットアジア太平洋事務所が実施するアフガニスタンの紛争、スリランカの大災害からの再建復興支援事業の現状報告と、愛・地球博を通じて出会えた方々との活動の広がりや成果の紹介、さらには「誰にでも出来る国際協力」と題し、募金箱に頂いた外貨を国別に分けるワークショップを行ない、市民との交流を通して国連ハビタットの活動を広報しました。

◆会場：久屋大通公園（愛知県名古屋市）

◆参加団体数：64団体

◆ブース来場者数：500名



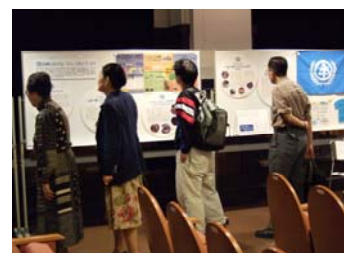
※その他に以下のイベントに参加

- 9/15～18：地球市民どんたく 2006（福岡市）
- 9/30～10/1：グローバルフェスタ 2006（東京都）
- 11/18～19：横浜国際フェスタ 2006（横浜市）：



＜パネル展＞

- 7/16：松下電器グループ主催チャリティコンサート（福岡市）
- 7/24～26：あおぞら銀行主催エクセレントセミナー（大阪市、名古屋、東京都）
- 9/6～12：八戸中合三春屋内 横浜湘南物産展会場（八戸市）
- 9/22～10/10：福岡空港フォトコンテスト展（福岡市）
- 9/19～22：ハビタット活動写真展 in アジア太平洋フェスティバル（福岡市）
- 9/28：横浜市民プラザ第38回定期講座講演会（横浜市）
- 10/14～15：ハビフレ仙台主催宮城大学学園祭（仙台市）
- 11/12～18：（財）横浜市男女共同参画推進協会主催「女性の視点で考える防災のまちづくり」事業（横浜市）
- 1/17～3/31：トヨタ部品宮城共販(株)事業所内「ハビタット支援ミニパネル展」2007年度継続（仙台市）
- 1/21～3/19：国立新美術館オープニング企画「黒川紀章展」（東京都）



(4) ワークショップ開催

修学旅行や夏休みの自由研究、出前授業で小学生、中学生を対象に実施したワークショップは国連や、ハビタットの活動、また途上国の抱える居住問題の理解を深め、子どもたちの国際理解につながると好評を得ています。今年度は新たな試みとして、企業主催の社員のボランティア研修に参加し、ワークショップを開催しました。

これらのワークショップには成田空港他で寄せられた募金の外貨コインを使用し、国別に選別しながらコインを通して見える世界のことを考えています。

- 4/20 : 山形県酒田市立第五中学校、岩手県岩手町立沼宮内中学校
- 5/11 : 新潟市立下山中学校
- 7/13 : 三井物産(株) ボランティア入門講座
- 8/14 : 東京都町田市立南第一小学校
- 3/ 3 : 神奈川県横浜市青葉台小学校 土曜塾



(5) PRESS による活動紹介

広報活動を積極的に実施した結果、下記の内容について新聞に掲載されました。(詳細は巻末資料参照)

- 5/14 朝日新聞：国連ハビタット佐藤摩利子人間居住専門官の講演会 P R
- 7/18 : 私の財産…活動 P R (朝日新聞販売店より 150 万部)
- 10/2 : 読売新聞…イラクの再建事業、カレンダー募金のお願い
- 2/9 : 読売新聞…写真パネル展 (名古屋中日ビル内郵便局) P R
- 2/11 : 中日新聞…写真パネル展 (名古屋中日ビル内郵便局) P R

(6) 広報ツール作成

①WEB 紙芝居

子ども達が国連ハビタットの事業活動の理解を深めることが出来るよう、WEB 紙芝居「3匹のこぶたとハビゾウ君」を作成しました。10月の国連ハビタット主催の国連加盟 50 周年記念イベントでは、福岡市立平尾小学校の子ども達が紙芝居の吹き替えを担当して上演し好評を得ました。今後の国際理解学習のツールとして活用する予定です。



②円形パネル

国連ハビタットアジア太平洋事務所が実施するアフガニスタンの紛争、スリランカの大災害からの再建復興支援事業の様子を、5枚の円形パネルと1枚の四角パネルで構成される活動紹介パネルにまとめ、2組作成しました。展示会等で活用しています。



③長方形パネル

日本ハビタット協会を通じて国連ハビタットの活動を支えて下さるハビタットフレンズの輪が全国的に広がりつつあります。

『日本中に広がるハビタットの輪』と題して、各地の活動の様子をA1 サイズのパネルに作成しました。一人でも多くの方に、国連ハビタット及び日本ハビタット協会の活動をご理解頂き、支援して頂けますよう、展示会等で活用しています。



④ポスター

国連ハビタットの活動をよりわかりやすく理解できるように、A2 サイズのポスターを作製しました。また、ポスターの左下部分には、「We support HABITAT」「〇〇〇〇は国連ハビタットの主旨に賛同し、日本ハビタット協会の活動に協力します」と、募金箱を置いて頂いているお店や企業のお名前を自由に入れ、貼ることが出来るシールを作成しました。

イベントの際はもちろんのこと、お店や企業でも多く活用頂いております。

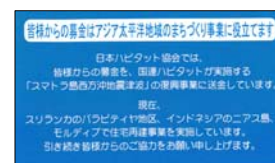


⑤チラシ

上記の③長方形パネルと④ポスターを裏表に印刷した A4 サイズのチラシも作成し、広報活動に使用しております。

⑥中型募金箱用広報ツール

中型募金箱の上部にカタログケースを設け、募金をご協力下さる方に、頂いた募金の用途と活動内容を持ち帰っていただけの名刺サイズのリーフレットを作成しました。



(7) ニュースレター「まちづくり通信」臨時号

今年度は活動報告として「まちづくり通信」vol. 10 を 15,000 部、vol. 11 を 15,000 部、また「世界都市フォーラム臨時号」を 10,000 部発行しました。

発行物は、会員、募金支援者、国連ハビタット議員連盟の方々、国連ハビタット協力委員会企業、全国の女性センター、図書館、大学、県庁（まちづくり課、国際課、男女共同参画担当課）、市町村と 23 区（まちづくり課、国際課）等、延べ 8,000 箇所へ郵送するほか、展示会、イベント会場での配布、定期設置場所、マリ・クリスティーン親善大使の職務上の講演会等でも配布されました。



(8) 展示コーナー

東京本部のあるふくおか会館 1 階ロビーに、福岡県事務所のご好意でハビタットの展示コーナーができました。パネル、ポスターなどを随時交換し、ふくおか会館を訪問する方々に広報できる機会が増えました。



(9) ホームページ

「ホームページを見て」と問い合わせも増えており、カレンダー募金、Tシャツ募金等の申し込みもホームページが活用されています。まちづくり通信もホームページから読めるようになっております。また、国連ハビタットの活動をより理解して頂くために、国連ハビタットの職員が作成したゲーム「ハビタット物語」も新たに掲載しております。

ホームページの活用は広報活動に欠かせないツールとなっています。事業の状況に沿ってよりきめ細かく更新し、日々新しい内容を盛り込めるようにすることが今後の課題です。

2. 協力支援事業

(1) カンボジアの“いのちの水”プロジェクト

2006 年 2 月に札幌で開催したチャリティートーク&ライブショーの収益金及び募金、ロータリークラブからのご寄付等 1,480,000 円、および国際ソロプチミスト札幌フレンズの 10 周年記念事業のご寄付計 2,500,000 円で、カンボジアにおいて「いのちの水」プロジェクトを実施しました。

<いのちの水事業の概要>

プノンペン市のスラム地域を対象に安全な生活用水の供給と生活排水に関する住環境の整備を目的に、住民との話し合いのもと「手押しポンプ付き井戸建設」「コミュニティ生活道路整備&フットビレッジ建設」「コンクリート道路建設&排水溝整備」を 3 地区、5 箇所で実現することができました。

工事は 2006 年 6 月に着工し 10 月に完了しました。



支援先	協力団体
ダンコール地区 1986 コミュニティ ダウンペン地区	国際ロータリークラブ第 2510 地区 チャリティートーク&ライブショー の収益金募金
ダンコール地区グル ープ 3 コミュニティ チャムカモン地区	国際ソロプチミスト札幌フレンズ 10 周年記念事業



(資料提供：島崎裕子)

(2) インドネシア・ジャワ島中部地震緊急募金プロジェクト

2006年5月にインドネシア中央ジャワ州及びジョグジャカルタ自治区一帯で発生したインドネシア・ジャワ島中部地震に日本全国から寄せられた募金2,655,000円は、地震に強い伝統的な住宅の再建事業、および耐震住宅建設のためのガイドライン資料の作成に活用することが決定し、2007年3月に国連ハビタットアジア太平洋地域事務所を通してインドネシアに送金しました。

(3) 事業実施報告

2005年度に皆様からの募金を送金し、各国で実施した事業の完了報告が国連ハビタットから届きました。

国・地域	アフガニスタン： ファラー市・第5地区	パキスタン 北西辺境州 コヒスタン地区ケヤル州
事業名	ファラー「命の水プロジェクト」 (フェーズ2)	パキスタン地震により被災した山間部の村民のための仮設住宅事業
事業目的	居住する帰還民と国内避難民に 安全な飲料水の提供を行う	ケヤルの被災者160世帯に仮設住宅の材料と建設技術の訓練を提供。コミュニティ主導の復興活動を支援する
事業内容	・給水ネットワークの延長工事(1900m) ・コミュニティやシュラーの能力開発 ・地域経済の再生と雇用の創出	人間、もしくは人間と家畜が居住できるように設計された文化的、環境的に優しい仮設住宅を建設
実施時期	2007年2月～2007年3月	2006年1月(準備開始)～2006年7月
成果	20年以上も安全な水を確保できずにいた人々に安全な飲み水を提供できた	予定を38戸上回る198世帯の仮設住宅の建設を完了できた
受益者数	270世帯1890人	198世帯
現場風景		

(資料提供：国連ハビタットアジア太平洋事務所)

(4) 国連ハビタットアジア太平洋事務所支援

2007 年 3 月、財団法人福岡県国際交流センターを通じ、国連ハビタットアジア太平洋事務所の活動経費として 1,050,000 円を拠出しました。

(5) ハビタットカレンダー 2007

国連ハビタットの実施する「紛争・災害後のまちづくり」募金のため、ハビタットカレンダー2007 の配布を通して募金活動を行いました。

このカレンダーは世界ハビタットデー2006 を記念して開催した絵画コンクール「未来に残したい私たちの“まち”」の応募作品で構成されています。タテ 20cm×ヨコ 20cm の壁掛け・立掛け両用タイプで、素敵な絵画がポストカードになるよう製作されました。



- ◆カレンダー作製数：3,000 部
- ◆カレンダー募金総額：2,630,000 円 (2,639 部)
*前年度比 18%UP

*募金総額から、カレンダー制作費、送料を引いた金額が紛争・災害後のまちづくり事業費に充てられます。

(6) ハビタットオリジナルTシャツ

国連ハビタットの実施する事業への募金のためにTシャツを作成、配布を通して募金活動を行いました。

- ◆Tシャツ作成数：500 枚
- ◆Tシャツ募金額：482,400 円
- ◆申込者数：268 枚



(7) 紛争後・災害後のまちづくり募金事業

2006 年度の一般募金総額は、10,106,663 円です。大型、中型募金の設置拡大に努力を続けており、募金額は増加しております。さらに、今年度は「コイン大使」制度を開始、「書き損じハガキ」の収集にも力を入れました。

①大型募金箱

大型募金箱はこれまでも成田空港、福岡空港、熊本空港、長崎空港、博多国際埠頭、アクロス福岡をはじめとする 12 箇所に設置させて頂いておりますが、2006 年 6 月成田空港第 1 ターミナル南ウィングオープンに伴い、新しく設置させて頂くことができ、現在は 13 箇所に設置しております。



②中型募金箱

病院、美容院、個人商店、企業などに設置させていただいている中型募金箱はボランティアの方々が配布にご協力くださっているおかげで設置箇所が増え、2006 年度は 150 個新しく作成いたしました。



③コイン大使

募金箱に寄せられる外貨コインは分別などに手間取る上、換金が難しく、これまで大きな課題でありましたが、ボランティアデーでの作業で分別が進んでいる上、コイン大使の活躍により課題が解消されつつあり、協力支援事業に活用されるようになりました。

＊コイン大使とは…出張や旅行で海外へ渡航時に、コインを持参して頂き、当地の紙幣がドル紙幣に交換していただくボランティア

◆日本円への換金額：1,369,464 円 （前年度比 50%UP）

④書き損じ葉書

書き損じ葉書は1枚が45円分の寄付となることを広報し、多くの皆さまのご協力を頂きました。2007年度もさらに広げて参ります。

3. その他の事業

2004年度発行の報告書「国連ハビタットがすすめる女性にやさしいまちづくり」を販売致しました。販売数は伸びず、昨年度の販売実績は、2冊の3,000円です。

収益事業を実施すると税金の負担があり、収益事業の実施は検討課題です。書籍はイベント等での配布に回し、しばらくの間収益事業を停止するなど、新しい措置が必要と考えられます。

4. 組織活動

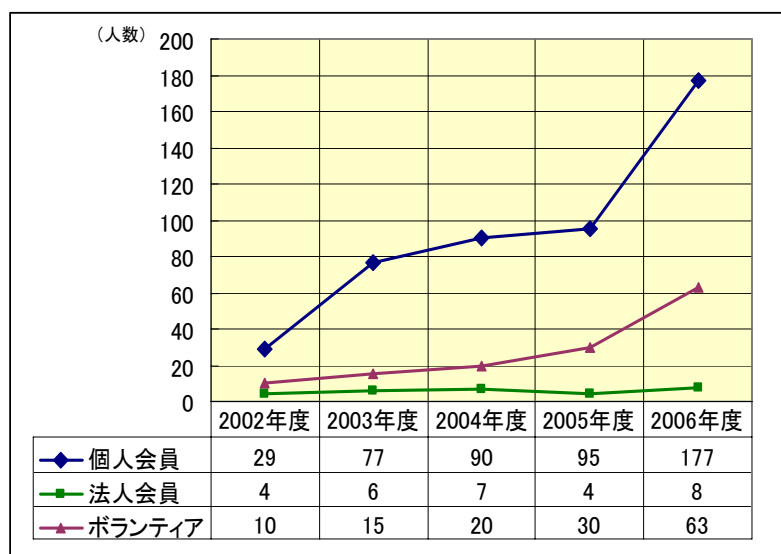
(1) 会員（2006年4月1日～2007年3月31日）

2006年度は全ての配布物に会員の入会申込み書類を組み入れたり、ボランティアデーをはじめ、様々な場所にて主旨をお話して、増強に努めました。

その結果、個人会員は前年度比47%アップの177人となりました。

正注册会员の増強に務めながら、継続会員、法人会員の増加・獲得が今後の大きな課題です。

- ◆個人会員：177人
- ◆法人会員：8団体
- ◆ボランティア：63人



(2) ハビタットフレンズ

ハビタットの活動に賛同して頂き、自分たちに出来ることをと様々な形で支援して下さい。ハビタットフレンズの輪が全国に広がりつつあります。

①ハビタットフレンズ東京

毎月第1、第3火曜日の午後に開催されるボランティアデーへの参加者数は大変増えております。参加者の増加に伴い、会場を東京本部事務所のふくおか会館から麹町区民会館に移動しました。広い会場の中で、外貨コインの分別、まちづくり通信の発送、その他の作業がより円滑に行なわれ、活動を活発化することができました。

その他に、東京本部事務所にもボランティアのために立ち寄られる方々も増えております。

◆ボランティア登録数：63名

◆開催数：20回

◆参加ボランティア数：のべ400名（前年度比約200%増）



さらに、会員入会の呼びかけ、知り合いの商店や病院、市民センターなどへの中型募金箱の設置活動に尽力下さいました。

また、成田空港の募金回収作業も担当して頂いております。

グローバルフェスタではブース運営をお手伝い頂き、国連50周年イベント、国連女性の日イベントをはじめ、国立新美術館での絵画展など多くのイベントにたくさんの方が参加して下さい、年間を通じて会を盛り上げて頂きました。



②ハビタットフレンズ仙台

仙台では、2006年12月9日に、ハビタットフレンズ仙台主催で約300名集客のチャリティコンサート「Live Together II」が催されました。会は、マリ・クリスティーヌ親善大使の講演ではじまり、東北楽天ゴールデンイーグルス社長補佐のM・キーナート氏との対談もあり、ハビタットの活動を多くの人に伝えることが出来ました。

さらに仙台市内の企業や大学内での展示会の開催、自動販売機募金協力をお願い、法人会員の呼びかけなど発展的な形で活動が広がっています。

*自動販売機募金とは・・・社員の方が1本飲み物を買うとごとに1円募金



③ハビタットフレンズ名古屋

愛・地球博を通じて出会った方々が、セントレア空港の募金回収作業を担当頂くほか、6月23日～25日に開催された市民大交流フェスタ「育てよう！愛・地球博の種」ではブース運営をお手伝い頂き、多くの来場者にハビタットの活動を広報して下さいました。

また2007年2月1日～2月28日の間、名古屋の中心街にある中日ビル内郵便局で国連ハビタットの活動写真展を開催しました。会期中には、マリ・クリスティーヌ親善大使が訪問、中日新聞と読売新聞の取材も受け、国連ハビタットの活動を大きくPR頂きました。



4. 事務局体制

2006年度、東京本部は2名、福岡支部は1名の常勤スタッフと、経理、ホームページ作成のパートスタッフ2名にて運営しました。

管理費を抑えるために職員数を減らしていますが、職員1人にかかる仕事量が増えているのが現状です。マンパワー不足のために事業の拡大を控えざる得ないこともあり、今後、日本ハビタット協会の事業・広報活動を拡大していくためには、この点を踏まえ、活動の方向性をしっかりと考える必要があります。

★2006 年度の活動実績

2006 年

4 月 20 日	国際理解学習 (山形県酒田市立第五中学校・岩手県岩手町立沼宮内中学校)	東京事務局
5 月 11 日	国際理解学習(新潟市立下山中学校)	東京事務局
5 月 18 日	国連ハビタットアジア太平洋事務所 佐藤摩利子人間居住専門官 講演会 (東京、横浜 2 会場にて開催)	東京都、横浜 市
6 月 19 日～23 日	国連ハビタット第 3 回世界都市フォーラム	カナダ
6 月 23 日～25 日	市民大交流フェスタ～育てよう愛・地球博の種	名古屋市
7 月 13 日	三井物産㈱ボランティア入門講座	東京都
7 月 16 日	松下電器グループ主催チャリティコンサート・パネル展示	アクロス福岡
7 月 24 日～26 日	あおぞら銀行主催エクセレントセミナーにてパネル展示	大阪市、名古 屋市、東京都
8 月 14 日	国際理解学習(東京都町田市立南第一小学校)	東京事務局
9 月 6 日～12 日	八戸中合三春屋内、横浜湘南物産展会場にてパネル展示	八戸市
9 月 15 日～18 日	地球市民どんたく 2006	福岡市
9 月 19 日～22 日	ハビタット活動写真展 in アジア太平洋フェスティバル	福岡市
9 月 22 日～10 月 10 日	ハビタット活動パネル展(福岡空港フォトコンテスト展内)	福岡市
9 月 28 日	マリ・クリスティーヌ親善大使講演会(横浜市民プラザ第 38 回定期 講座)にてパネル展示	横浜市
9 月 30 日 10 月 1 日	グローバルフェスタ 2006	東京都
10 月 2 日	世界ハビタットデー2006・記念シンポジウム	福岡市
10 月 14 日 15 日	宮城大学学園祭にてパネル展示(ハビフレ仙台主催)	仙台市
10 月 17 日～29 日	世界ハビタットデー2006・記念絵画コンクール	福岡市
10 月 22 日	国連 50 周年イベント「ぼくたち、わたしたちが世界にできること」	福岡市
10 月 25 日	国連 50 周年イベント(国連大学内)	東京都
11 月 12 日～18 日	女性の視点で考える防災のまちづくり会場にてパネル展	横浜市
11 月 18 日 19 日	横浜国際フェスタ 2006	横浜市
12 月 9 日	ハビタットチャリティコンサート in 仙台(ハビフレ仙台主催)	仙台市
12 月 28 日～29 日	キャナルシティ博多・チャリティオークション	福岡市

2007 年

1 月 17 日～3 月 31 日	トヨタ部品宮城共販㈱事業所内「ハビタット支援ミニパネル展」 2007 年度継続	仙台市
1 月 21 日～3 月 19 日	世界ハビタット・デー記念絵画展 in 国立新美術館	東京都
2 月 1 日～28 日	ハビタット活動写真展 in 名古屋中日ビル内郵便局	名古屋市
3 月 3 日	国際理解教育「土曜塾」参加	横浜市
3 月 8 日	国連女性の日 2007 公開フォーラム(国連大学内)	東京都
毎週第①・③火曜日	ボランティアデー	東京事務局

2006年度 特定非営利事業に係る収支決算書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1. 入会金収入				入会金なし
2. 会費収入				
正会員	600,000	525,000	75,000	個人会員177人（前年度87人）
賛助会員	600,000	360,000	240,000	法人会員 8団体
準会員			0	会費なし
3. 事業収入				
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	14,500,000	18,266,937	△ 3,766,937	
②ハビタット広報事業	9,500,000	16,585,329	△ 7,085,329	
4. 雑収入	0	21,022	△ 21,022	利息、Tシャツ募金送料
5. 収益事業会計からの繰り入れ	1,229,500	0	1,229,500	
当期収入合計（A）	26,429,500	35,758,288	△ 9,328,788	
前年度繰越金		14,143,990		
収入合計（B）		49,902,278		
II 支出の部				
1. 事業費				
①アフガニスタン等開発途上国の再建復興支援事業	7,000,000	8,231,390	△ 1,231,390	カンボジアスラム改善事業、インドメシア復興事業
②ハビタット広報事業	8,500,000	12,234,969	△ 3,734,969	まちづくり通信、シンポジウム、展示
2. 管理費				
家賃	150,000	99,942	50,058	ふくおか会館内 8㎡
役員報酬	0	0	0	
事務人件費	8,126,000	6,701,610	1,424,390	東京本部職員2名、パート2名、アルバイト9名、福岡支部職員1名
法定福利費	0	992,090	△ 992,090	
通信費	900,000	609,175	290,825	
消耗品費	800,000	845,879	△ 45,879	
旅費交通費	1,000,000	929,590	70,410	
理事会・総会運営費	50,000	0	50,000	
事務局運営費	300,000	403,415	△ 103,415	
その他	0	190,887	△ 190,887	法人事業税、都民税、福岡県民税、福岡市民税、利子税、印紙代
3. 予備費	100,000	0	100,000	
4. その他の事業への繰入金	0	98,200	△ 98,200	
当期支出合計（C）	26,926,000	31,337,147	△ 4,411,147	
当期収支差額（A）－（C）		4,421,141		
次期繰越収支差額（B）－（C）		18,565,131		
次期繰越金		18,565,131		

（単位：円）